

工程管理と密接な関係

「現場目線にこだわり、常に一歩先を提案してきた」と語る

土木工事積算システム『Gaiia（ガイア）』で知られる同社は、強みの積算領域を軸に川上の入札情報、川下の見積・実行予算や工程管理に向け、システム提供の幅を広げてきた。「ユーザーの立場に立ち、使い勝手とサポートの充実に力を注いできた」と手応えを口に

変わる現場 ASP 情報共有 6

05年に発売した工程管理型マネジメントシステム『Being Project-CCPM』は建設業だけでなく、製造業にも幅広く活用されている。制約理論（TOC）に基づいた全体

ビーイングの「BeingCollaboration」

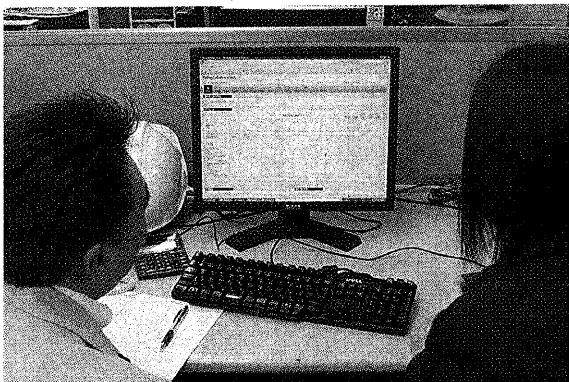
最適のマネジメント手法（CCPM）により、根拠ある工期短縮を実現できる点が評価されている。「情報共有システムと、もっとリアルタイムにデータ連携できるような、機能拡充を進めたい」。工程管理の強みを生かす意味で、日報機能の強化には特に力を注いできた。

現場の関係者に加え、本社など幅広い範囲からも情報を確認でき、原価管理や会計システムとも連動できるようにした。携帯電話からも閲覧や入力が可能で、より多くの関係者による情報把握が実現する。「工程は生

き物。日々変わる現場の状況を官と民、さらには社内で行かに

現場目線を突き詰める

現場の目線を突き詰める中で、情報共有の手段として、将



営業拠点には2、3人のインストラクターを配置している

来的には「iPad（アイパッド）」などタブレット型端末とのシステム連携も必要不可欠と考えている。専用アプリケーションとの組み合わせで「野帳代わりに利用することでも可能で、アイデア次第ではさまざまな切り口の使い方が考えられる」と、その先を見据えている。

ガイアシリーズのユーザー数は、累計で1万5000社に達する。このうち半数は情報共有システムを必要とする層としてターゲットに位置付ける。入札への戦略設定から積算、見積・実行予算の立案、工程管理まで一連の流れをパッケージとして提供できる同

社は、あくまでも建設会社のICT（情報通信技術）対応を見据えたシステム全体の最適化を心掛ける。北海道から沖縄まで全国18地域に営業拠点を置く組織体制は、システムのサポートを行う支援拠点でもある。各拠点には少なくとも2、3人のインストラクターを配置し、営業担当者と連携したアフターフォロー体制を構築する。オペレーター20人のコールセンターもユーザーにとっては力強い味方だ。

（西原一仁）

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海事 |
| 16. 建設工業 | | |

平成25年4月24日（朝）・夕 P 3